

令和5年度は、5月から新型コロナが感染症法上の位置付けが5類感染症に変更され、可能な限りの事業実施ができました。

しかし、県シニアリーグでは、8月末から9月中旬の残暑による熱中症対策で、35試合の中止を強いられました。ご尽力いただきました多くの皆様に、改めて心から感謝申し上げます。

以下、重点施策を中心に実施事業を報告します。

1 県協会支部としての積極的活動

各種別の県大会の運営について、コロナ対策、熱中症対策を行いながら、実施することができました。

2 支部の在り方について

各種別の状況が異なる中、中部支部とともに「静岡市サッカー協会」として、「セントラルトレセン」や「サッカーフェス SHIZUOKA2023」や「静岡カップ」などを共同して実施し、互いの協力関係の維持・強化を図りました。

3 普及活動

中東部支部内の4種チームを紹介する「4種マップ」を作成し、清水区内の小学1年生及びこども園等の年長児童全員に配布しました。「キッズサッカーフェスティバル」や「JFA なでしこひろば in ガールズサッカーパーティ 2024」や「しずおか学校訪問プロジェクト」を開催し、未就学児童のキッズ活動の充実と少年チームへの加入促進を図っていきます。

4 競技力・技術力向上

次のチームが全国大会に出場しました。

清水エスパルスジュニアユース：第38回日本クラブユースサッカー選手権大会（U-15）

清水エスパルスユース：第47回日本クラブユースサッカー選手権大会（U-18）

清水FC女子：JFA 第27回全日本U-18女子サッカー選手権大会

東海大学静岡翔洋高校フットサル部：JFA 第10回全日本U-18

フットサル選手権大会

5 清水エスパルスなどとのホームタウン推進

エスパルスはJ1復帰を目指し最終戦まで戦い、復帰は叶いませんでしたが、Jリーグ等での応援と、支部内の大会へのエスパルスの協賛・協力等を通じ、引き続き良好な連携が図れました。今後とも良好な相互協力関係を構築していきたいと思えます。

6 競技会運営等

天皇杯全日本サッカー選手権大会2回戦と国際親善試合(U-22日本代表対U-22アルゼンチン代表)の2度の運営に取り組みました。天皇杯では2,493人、国際親善試合では11,225人の観客を集め、運営しました。

令和3年度から施行した支部役員任期（定年制）規定に基づく初めての役員改選がなされ、大幅な交代が行われました。

これまでご尽力いただきました皆様に心より感謝申し上げますとともに、新たな役員の皆様を加え、当支部が益々積極的に活動を展開することを祈念し、事業報告とします。